

# 株主の皆様へ

第129期 中間報告書

2006年4月1日から2006年9月30日まで



## 連結財務ハイライト

(単位:億円)

	当中間期	前年中間期	増 減
売上高	9,130	6,990	+31%
営業利益	400	320	+25%
経常利益	534	415	+29%
中間純利益	302	250	+21%
配当金	22円	18円	+4円

## 目 次

連結財務ハイライト	1
株主の皆様へ	2
連結業績の概要	3
トピックス	5
当社80年の軌跡	7
連結決算	9
連結貸借対照表	
連結損益計算書	10
連結キャッシュ・フロー計算書	
単独決算	11
貸借対照表	
損益計算書	12
会社の概況	13
株式の状況	
会社の概要	14
株主メモ	
ホームページのご案内	裏表紙

【将来見通しに関する記述についての注意】  
この中間報告書において、当社の現在の計画、見通しなどのうち歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた、当社の経営者の信念および判断に基づいています。したがって、これらの業績見通しのみで全面的に依拠することは控えていただきますよう、お願いします。実際の業績は、さまざまなリスクや不確実性により、これらの業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知ください。実際の業績に影響を与える不確実性には、当社の事業を取り巻く経済情勢、さまざまな競争圧力、関連法律・法規、為替相場の変動などが含まれます。ただし、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

## 株主の皆様へ

株主の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

日頃より、豊田自動織機ならびに豊田自動織機グループ各社をご支援いただきまして、誠にありがとうございます。

第129期中間報告書をお届けするにあたり、ご挨拶申し上げます。

当中間期の業績につきましては、自動車部門の販売が好調に推移し、売上高・経常利益とも中間期としては過去最高を更新し、7期連続の増収増益を達成することができました。また、通期につきましても、8期連続の増収増益を見込んでおります。

中間配当金につきましては、前期に比べ4円増配の、1株につき22円とさせていただきました。これにより、中間配当金は6期連続の増配となります。今後も、業績・資金需要などを勘案いたしますとともに、連結配当性向も重視し、皆様のご期待におこたえしてまいりたいと存じます。

さて当社は、本年11月18日に創立80周年を迎えました。この間、社祖豊田佐吉以来、脈々と流れるベンチャースピリットを礎に事業を多角化、グローバル化してまいりました。今後もさらなる飛躍を目指し、新たな中期経営計画の達成に向け努力してまいります。同時に会社の体質を一層強化すべく基本を見つめ直し、コンプライアンスの徹底はもちろんのこと、環境経営と安全第一、品質・原価の徹底的な追求、そしてそれらを支える人材育成に注力してまいります。

株主の皆様におかれましては、今後も引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

2006年11月



取締役会長 石川忠司 取締役社長 豊田鐵郎

## 営業の概況

当中間期の日本経済は、企業収益が好調に推移するなかで、民間設備投資は増加し、個人消費も緩やかに改善するなど、景気は着実に回復してきました。一方海外でも、米国、欧州とも景気拡大が続き、中国経済も高成長を継続するなど、景気は引き続き力強さを増してきました。

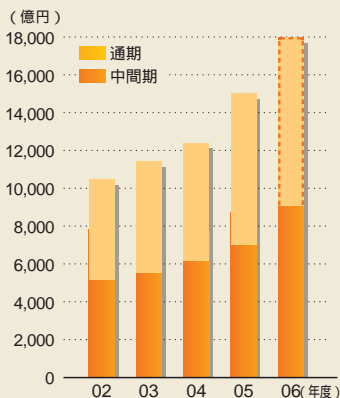
このような状況のなかで、当中間期の売上高は、前年同期を2,140億円(31%)上回る9,130億円となりました。

利益については、原材料価格の値上がりや、減価償却費・人件費の増加などの減益要因がありましたが、売上げの増加に加え、グループあがての

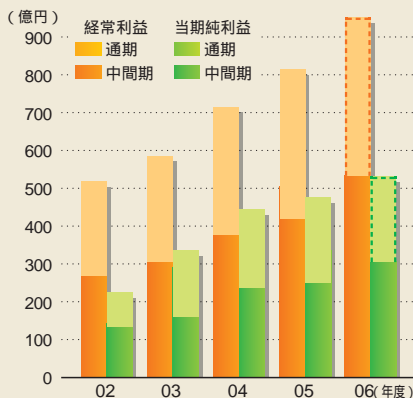
原価改善活動の推進、営業外収支の増加などにより、経常利益は前年同期を119億円(29%)上回る534億円となりました。また、中間純利益は、前年同期を52億円(21%)上回る302億円、1株当たり中間純利益は、前年同期を18円(23%)上回る96円となりました。

通期の業績については、1ドル115円の為替相場を前提に、売上高は1兆8,000億円、営業利益は760億円、経常利益は950億円を見込んでいます。また、当期純利益は530億円、1株当たり当期純利益は169円を見込んでいます。

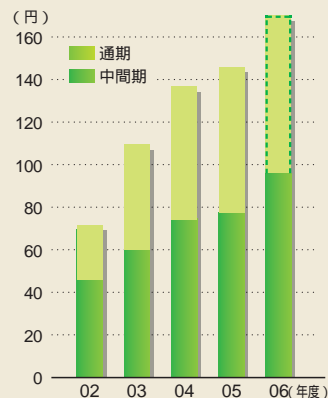
### 売上高



### 経常利益・当期純利益



### 1株当たり当期純利益



(注) 2006年度通期については見込みです。

## セグメント情報

【自動車】 車両は、昨年11月にモデルチェンジしたRAV4が北米、欧州市場で好調に推移し、また、ヴィッツも海外向けが増加したことにより、売上高は、前年同期を676億円(44%)上回る2,223億円となりました。

エンジンは、IMVシリーズ用KD型ディーゼルエンジンや、欧州向けRAV4などに搭載されているAD型ディーゼルエンジンが好調に推移し、売上高は、前年同期を147億円(23%)上回る801億円となりました。

カーエアコン用コンプレッサーは、国内および北米向けは前年並みで推移したものの、欧州、中国向けが増加したことにより、売上高は、前年同期を81億円(8%)上回る1,131億円となりました。

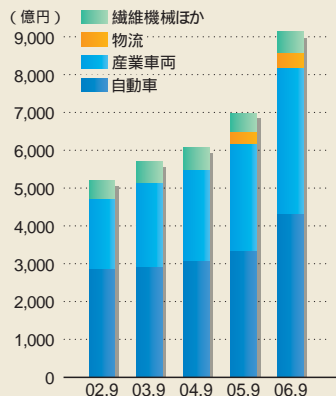
【産業車両】 世界的に景気が力強さを増すなか、

引き続き販売網の強化・拡充に努め、積極的な拡販活動を推進しました。さらに、子会社のBTインダストリーズグループの決算期変更および(株)アイチコーポレーションの好調な販売も寄与し、売上高は、前年同期を1,067億円(38%)上回る3,882億円となりました。なお、本年9月には当社の主力商品である1~3トン積みエンジン式フォークリフト「ジェネオ(GENEO)」のフルモデルチェンジを行いました。

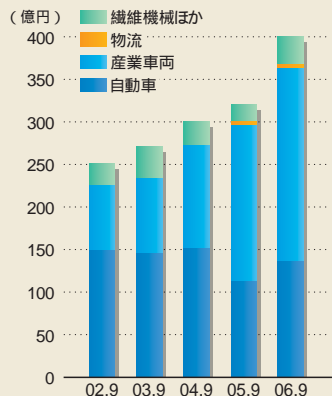
【物流】 お客様の物流コスト低減をねらいに、ソリューション事業を積極的に展開し、売上高は、前年同期を92億円(30%)上回る398億円となりました。

【繊維機械】 紡機は前年並みにとどまりましたものの、主力のエアジェット織機の販売が中国向けを中心として好調に推移したことにより、売上高は、前年同期を34億円(14%)上回る274億円となりました。

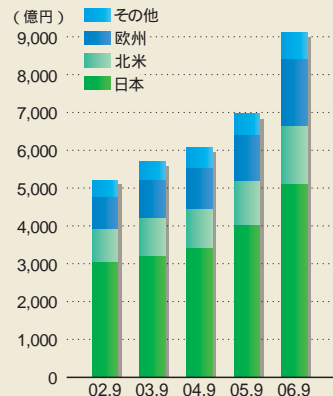
### 事業別売上高



### 事業別営業利益



### 市場別売上高



(注1)2004年度まで「繊維機械ほか」に含めていました物流に関する事業について、2005年度から「物流」として区分しています。

(注2)事業別売上高は部門別売上高の数値を使用しています。事業別営業利益は事業の種類別セグメント情報の数値を使用しています。

## フォークリフト国内販売台数は40年連続でNO.1

これから豊富な商品ラインナップと充実した販売・サービスネットワークで、お客様の最適な物流環境の構築をサポートします。



今年トヨタL&Fはフォークリフト国内販売50周年を迎えました。

### 【新商品のご案内】

#### 安全と環境のNewスタンダード 新型ジェネオ誕生

(1～3.5トン積みエンジン式フォークリフト)

お客様のご要望におこたえし、ご満足いただくために、「安全」「環境」「使いやすさ」を極め、新型ジェネオへと進化しました。



#### 高いレベルの安全性

**SAS(システム オブ アクティブ セーフティー)**  
作業中の安全と作業効率向上を実現したトヨタ独自のシステム  
**OPS(オペレーター プレゼンス センシング)**  
オペレーターが運転席を離れた時の事故防止に貢献  
**スピードコントローラーⅡ**  
積荷の状態をセンサーで検知し、走行を制御

#### 環境と人にやさしく

**排ガスクリーン化**  
力強さを保ったまま、CO排出量57%、NOx + HC排出量を99%低減  
**低燃費・低振動化**  
燃費を15%、足元振動を90%低減するなどクラストップレベルの性能を実現

#### 高い操作性

**小径ステアリング**  
小さな動きで楽に操作でき、操作時の疲労を軽減  
**広いフロアスペース**  
長時間作業でも疲れにくいワイドなフロアスペースを確保

## 国際物流総合展2006 ～「物流ソリューションとフォークリフトの新たな未来へ」～

本年9月、東京ビッグサイトで国際物流総合展が開催され、当社からは新型ジェネオをはじめとする主力商品や、ハイブリッド技術、燃料電池技術を搭載したコンセプトモデルを展示しました。また、物流ソリューションをテーマに、最先端のIT技術や当社の物流機器などを交え、現場作業のデモンストレーションを行いました。



左 / ハイブリッドフォークリフト  
右 / 燃料電池フォークリフト

## コンプレッサー事業のグローバル生産体制を強化

日・米・欧に中国を加え、グローバル生産体制をさらに強固なものにしました。

### 【コンプレッサーグローバル拠点】



### 中国の生産体制強化

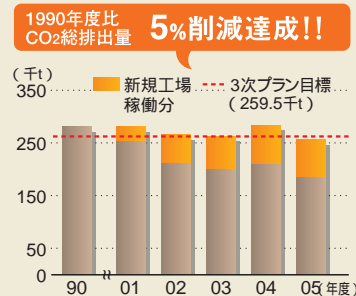


本年4月より、「豊田工業電装空調圧縮機(昆山)有限公司(TACK)」で可変容量型コンプレッサーの生産を開始しました。同時に、(株)デンソー・豊田通商(株)・首鋼総公司との合弁会社「烟台首鋼電装有限公司(YSD)」でも、固定容量型に加えて可変容量型コンプレッサーの生産を開始しました。今後も品質の一層の向上はもとより、各拠点での最適な生産・供給に努めていきます。

## 「第三次環境取り組みプラン」の目標達成と「第四次環境取り組みプラン」の開始

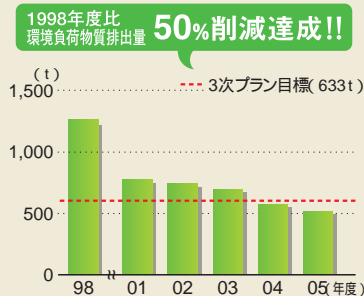
2001年度～2005年度の5か年計画として推進した第三次環境取り組みプランにおいて、すべての目標を達成しました。このうち、重要なテーマであった「1990年度比CO<sub>2</sub>総排出量5%削減」と「1998年度比環境負荷物質排出量50%削減」の結果は下のグラフのとおりです。引き続き、第四次環境取り組みプランの目標達成のため、活動を進めています。

### 【第三次環境取り組みプラン】



#### 【主な取り組み】

- ・コジェネレーション設備を7工場に導入
- ・生産工程でのロス低減
- ・生産設備の省エネ改善



#### 【主な取り組み】

- ・上塗ベース塗装の水溶性化(車両)
- ・有機溶剤塗装から粉体塗装への変更 (産業車両・繊維機械)

### 【第四次環境取り組みプラン】

2006年度～2010年度の5か年計画で環境経営に取り組むための第四次環境取り組みプランを昨年10月に策定し、今年4月から取り組みを始めました。

**地球温暖化防止  
資源生産性の向上  
環境リスクへの対応  
連結マネジメント**

上記～については「製品」「生産」それぞれの側面から実施項目、目標値を設定し、遂行しています。

# 当社80年の軌跡

	1926年	1930年代	1940年代	1950年代	1960年代
エレクトロニクス					
産業車両・物流					バッテリー エンジン式フォークリフト生産開始
自動車		自動車部設立	自動車部門が分離独立し、トヨタ自動車工業(株) (現トヨタ自動車(株))となる	車両組立を開始 エンジン生産開始	カーエアコン用コンプレッ
繊維機械		精紡機生産開始 自動織機生産開始			

刈谷工場操業開始

大府工場操業開始

共和工場操業開始

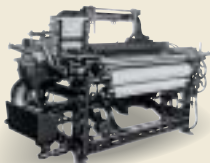
長草工場

## 創業

当社は、社祖豊田佐吉が発明した自動織機を事業化する目的で、1926年愛知県碧海郡刈谷町(現愛知県刈谷市)に設立されました。

高性能な自動織機は国内外で認められ、英国プラット社との間で10万ポンド(当時の円換算で100万円)の特許権譲渡契約を締結し、これにより次代の事業として進められた国産自動車の開発を加速させました。

1934年に乗用車用A型エンジン、翌年には大衆乗用車A1型の試作車が完成し、1937年当社の自動車部はトヨタ自動車工業(株)(現トヨタ自動車(株))として分離独立しました。



G型自動織機



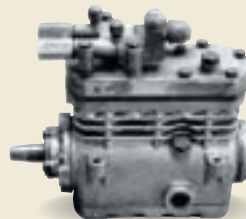
A1型乗用車

## 事業の多角化

1953年にエンジン・車両の生産を共和工場で行いました。

また、研究開発を重ね、1956年にはフォークリフト、1960年にはカーエアコン用コンプレッサーの事業にも相次いで新規参入しました。

このように、社祖佐吉から受け継がれたベンチャースピリットのもと、新分野を開拓し、事業を多角化・拡大してきました。



初期のコンプレッサーCC3型



初期のエンジン式フォークリフトLA型



1970年代	1980年代	1990年代	2000年代
			液晶ディスプレイ製造のためソニー(株)と合併でSTLCD(株)を設立 エレクトロニクス事業開始 半導体パッケージ基板製造のためイビデン(株)と合併で(株)TIBCを設立 ハイブリッド車用電子機器の生産開始
一式 フォークリフト生産開始		フォークリフトの 海外生産開始	物流ソリューション開始 (株)アイチコーポレーションを子会社化 トヨタ自動車(株)より産業車両販売・サービス部門譲受(製販統合) スウェーデンのBTインダストリーズ社を子会社化
	物流システム部設置		
		鋳造部品の海外生産開始	
サー生産開始	カーエアコン用コンプレッサーの 海外生産開始		トヨタ自動車(株)と合併で ディーゼルエンジンの海外生産開始
		繊維機械の海外生産開始	
	エアジェット織機生産開始		ウォータージェット織機生産開始
			東浦工場操業開始 東知多工場操業開始
	碧南工場操業開始		
高浜工場操業開始 操業開始			

## ■ 事業基盤・経営基盤の強化

各事業が拡大するなか、長草工場、刈谷コンプレッサー工場、高浜工場、碧南工場と相次いで専用工場を建設し、生産規模の拡大に対応していきました。

1971年には事業部制を導入し、効率的な経営管理体制を整備しました。また、1982年にはTQCを導入し、開発・品質保証体制を整備するとともに企業体質の変革をはかりました。



デミング賞実施賞受賞(1986年)

### デミング賞実施賞

統計的品質管理を基礎とした全社の品質管理を実施して顕著な効果をあげたと認められる企業、または事業部に対して授与される賞

## ■ グローバル展開

事業のグローバル化に伴い、1980年代後半に米国でフォークリフト、コンプレッサーの生産子会社を設立以降、各事業において海外での生産体制を強化してきました。

基幹事業である産業車両では、2000年にスウェーデンのBTインダストリーズ社を子会社化し、2001年にはトヨタ自動車(株)の産業車両販売・サービス部門の譲渡を受けました。開発から生産・販売・サービスに至るまでの一貫した体制のもと、シナジーの極大化を進めています。

それぞれの事業分野でグローバル展開をはかり、さらなる事業拡大に努めており、またエレクトロニクスにも領域を広げ、2006年9月末現在の連結子会社は159社、持分法適用会社は21社となっています。

今後とも企業価値の向上に向け、グループ一丸となり努力してまいります。

# 連結決算

【連結貸借対照表】

(百万円未満切り捨て)

科目	当中間期	前期
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	508,170	509,266
現金及び預金	86,787	94,474
受取手形及び買掛金	208,136	200,690
有価証券	25,021	45,002
たな卸資産	117,597	104,534
その他	70,627	64,564
固定資産	2,734,187	2,736,074
有形固定資産	581,758	526,154
建物及び構築物	168,709	155,168
機械装置及び運搬具	257,969	240,467
その他	155,079	130,518
無形固定資産	113,151	109,968
投資その他の資産	2,039,277	2,099,951
投資有価証券	1,969,324	2,031,863
その他	69,952	68,087
合計	3,242,357	3,245,341

科目	当中間期	前期
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	466,938	446,118
支払手形及び買掛金	189,836	182,595
短期借入金	53,662	38,928
コマーシャル・ペーパー	32,400	29,680
1年以内償還の社債		15,000
その他	191,039	179,914
固定負債	1,150,667	1,138,724
社債	284,567	283,831
長期借入金	142,471	106,267
繰延税金負債	654,420	681,503
退職給付引当金	44,708	46,535
その他	24,498	20,585
負債計	1,617,605	1,584,842
少数株主持分		49,270
<b>純資産の部</b>		
株主資本	518,340	530,150
資本金	80,462	80,462
資本剰余金	105,116	105,665
利益剰余金	380,167	358,385
自己株式	47,405	14,363
評価・換算差額等	1,052,035	1,081,077
その他有価証券評価差額金	1,006,330	1,047,190
繰延ヘッジ損益	147	
為替換算調整勘定	45,852	33,886
新株予約権	50	
少数株主持分	54,325	
純資産計	1,624,752	1,611,227
合計	3,242,357	3,245,341

## 【連結損益計算書】

(百万円未満切り捨て)

科 目	当中間期	前年中間期
	2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	2005年4月 1日から 2005年9月30日まで
売上高	913,085	699,028
売上原価	770,487	586,753
販売費及び一般管理費	102,546	80,223
営業利益	40,051	32,051
営業外収益	28,968	21,834
受取利息	8,539	4,406
受取配当金	14,353	10,687
その他	6,074	6,739
営業外費用	15,537	12,308
支払利息	9,942	5,258
その他	5,595	7,049
経常利益	53,482	41,577
税金等調整前中間純利益	53,482	41,577
法人税、住民税及び事業税	20,661	11,827
法人税等調整額	331	2,204
少数株主利益	2,883	2,536
中間純利益	30,268	25,008

## 【連結キャッシュ・フロー計算書】

(百万円未満切り捨て)

科 目	当中間期	前年中間期
	2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	2005年4月 1日から 2005年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	84,897	58,759
税金等調整前中間純利益	53,482	41,577
減価償却費	51,412	39,169
売上債権の増減額	2,764	11,695
たな卸資産の増減額	9,633	3,737
仕入債務の増減額	3,398	479
法人税等の支払額	17,701	14,067
その他	6,704	7,992
投資活動によるキャッシュ・フロー	97,411	114,771
有形固定資産の取得による支出	87,721	95,546
投資有価証券の取得による支出	9,254	21,375
その他	435	2,150
財務活動によるキャッシュ・フロー	18,435	30,187
短期借入金の純増減額	9,399	29,942
コマーシャル・ペーパーの純増減額		52,303
長期借入金の純増減額	25,705	25,882
社債の発行による収入		5,692
社債の償還による支出	15,948	20,300
自己株式の取得による支出	35,473	22
配当金の支払額	6,386	6,041
その他	4,268	2,615
現金及び現金同等物に係る換算差額	1,042	918
現金及び現金同等物の増減額	29,906	26,742
現金及び現金同等物の期首残高	112,596	100,535
現金及び現金同等物の期末残高	82,689	73,793

# 単独決算

## 【貸借対照表】

(百万円未満切り捨て)

科目	当中間期	前期
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
流動資産	231,948	268,957
現金及び預金	15,701	33,660
受取手形及び売掛金	105,844	104,826
有価証券	25,021	45,002
たな卸資産	35,537	34,380
その他	49,843	51,086
固定資産	2,518,810	2,560,315
有形固定資産	328,407	313,166
建物及び構築物	94,646	96,993
機械装置及び運搬具	137,975	135,288
その他	95,785	80,884
無形固定資産	8,233	8,944
投資その他の資産	2,182,168	2,238,204
投資有価証券	622,896	682,856
関係会社株式	1,514,453	1,511,885
その他	44,818	43,462
合 計	2,750,759	2,829,272

科目	当中間期	前期
	2006年9月30日現在	2006年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
流動負債	225,398	238,214
支払手形及び買掛金	128,997	128,930
1年以内償還の社債		15,000
その他	96,401	94,283
固定負債	1,053,113	1,058,287
社債	265,000	265,000
長期借入金	115,000	92,500
繰延税金負債	650,481	677,282
退職給付引当金	21,232	22,194
その他	1,399	1,311
負債計	1,278,512	1,296,501
<b>純資産の部</b>		
株主資本	467,426	487,184
資本金	80,462	80,462
資本剰余金	105,094	105,643
利益剰余金	329,274	315,442
自己株式	47,405	14,363
評価・換算差額等	1,004,770	1,045,586
その他有価証券評価差額金	1,004,919	1,045,586
繰延ヘッジ損益	149	
新株予約権	50	
純資産計	1,472,247	1,532,771
合 計	2,750,759	2,829,272

## 【損益計算書】

(百万円未満切り捨て)

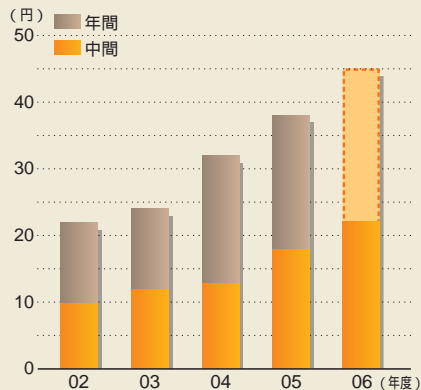
科 目	当中間期	前年中間期
	2006年4月 1日から 2006年9月30日まで	2005年4月 1日から 2005年9月30日まで
売上高	540,061	434,957
売上原価	490,716	387,204
販売費及び一般管理費	32,487	30,581
営業利益	16,857	17,172
営業外収益	18,928	15,492
受取利息及び配当金	15,814	11,852
その他	3,113	3,639
営業外費用	6,483	7,480
支払利息	2,784	2,240
その他	3,698	5,240
経常利益	29,301	25,184
税引前中間純利益	29,301	25,184
法人税、住民税及び事業税	8,543	4,374
法人税等調整額	239	3,216
中間純利益	20,519	17,593

## 中間配当について

2006年10月31日開催の当社取締役会決議により、2006年9月30日最終の株主名簿および実質株主名簿に記載もしくは記録された株主または登録株主質権者に対し、次のとおり中間配当金をお支払いします。

中間配当金	1株につき22円
効力発生日ならびに 支払開始日	2006年11月27日

## 1株当たり配当金

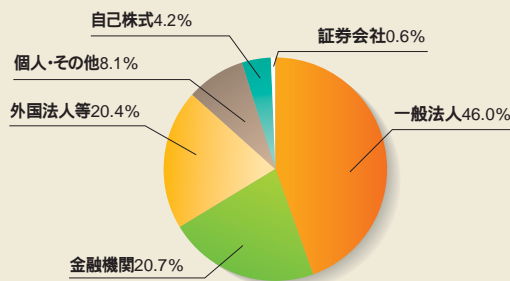


(注) 2006年度年間については見込みです。

## 株式の状況 (2006年9月30日現在)

発行可能株式総数	1,100,000,000株
発行済株式総数	325,840,640株
株主数	19,865名

### 【所有者別株式分布状況】

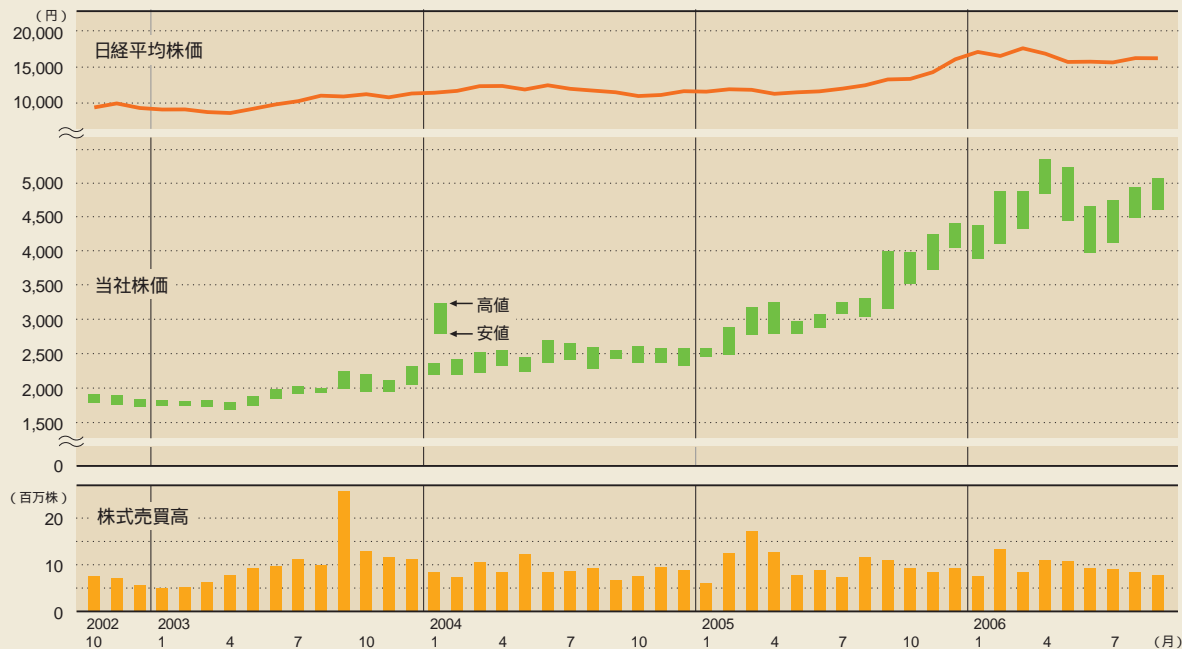


### 【大株主】(上位10名)

株主名	株式数 (千株)	議決権比率 (%)
トヨタ自動車(株)	76,600	24.58
(株)デンソー	29,647	9.51
東和不動産(株)	15,697	5.04
サード アベニュー バリュウ ファンド カストディアルトラスト カンパニー	14,285	4.58
日本マスタートラスト信託銀行(株) 信託口	10,887	3.49
豊田通商(株)	8,289	2.66
エイチエスピーシーバンク ビーエルシー クライアントツ ノンタックス トリーティ	7,666	2.46
ステート ストリート バンク アンドトラスト カンパニー	6,840	2.19
日本生命保険(相)	6,735	2.16
アイシン精機(株)	6,578	2.11

(注)上記のほか、当社が所有している自己株式13,815千株があります。

### 【株価の推移】



# 会社の概要 (2006年9月30日現在)

設立	1926年11月18日
資本金	804億円
従業員数	連結35,126名、単独11,167名
本社所在地	〒448-8671 愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 TEL(0566)22-2511(代表)
工場・事務所 (生産品目)	刈谷工場(繊維機械、カーエアコン用コンプレッサー) 大府工場(カーエアコン用コンプレッサー部品、ダイカスト品) 共和工場(電子機器、自動車用プレス型、エンジン部品) 長草工場(車両) 高浜工場(産業車両、物流システム機器) 碧南工場(自動車用・産業車両用エンジン) 東知多工場(鋳造品、自動車用エンジン) 東浦工場(カーエアコン用コンプレッサー部品) 石浜事業所(エンジン部品) 森岡事業所(自動車部品) 東京支社、名古屋支社、大阪事務所 トヨタ L&F カスタマーズセンター ほか

連結子会社 159社  
(国内45社、海外114社)

持分法適用会社 21社  
(国内4社、海外17社)

## 取締役

取締役会長	石川 忠司	専務取締役	豊田 康晴
取締役社長	豊田 鐵郎	専務取締役	室 殿 豊
取締役副社長	佐藤 則夫	専務取締役	吉田 和憲
取締役副社長	上村 伸治郎	専務取締役	山田 耕作
取締役副社長	水野 義勝	専務取締役	関 森 俊幸
取締役副社長	松浦 達郎	専務取締役	三 矢 金平
専務取締役	伊村 晟	取締役名誉会長	豊田 芳年
専務取締役	吉田 成毅	取 締 役	豊田 達郎
専務取締役	加藤 正文		

## 監査役

常勤監査役	御友 重孝	監 査 役	奥 田 碩
常勤監査役	伊藤 正宣	監 査 役	川 口 文夫
		監 査 役	渡 辺 捷昭

## 常務役員

河野 博哉	小川 隆希	大西 朗	大久保 孝司
竹中 健二	佐々木 一衛	PerZaunders	佐々木 憲夫
加勢田 聡	森下 洋司	酒井 博史	小河 俊文
辻 博文	古川 真也	古田 英志	池田 勇人
山北 幸男	伊藤 日藝	馬場 理好	大西 敏文

## 株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当金のお支払い	期末配当金は毎年3月31日現在の株主(実質株主を含む)または登録株式質権者に、中間配当金を支払う場合は9月30日現在の株主(実質株主を含む)または登録株式質権者にお支払いします。
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行(株)
同事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行(株)証券代行部
(同送付先)	〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行(株)証券代行部 電話0120-232-711(通話料無料)
同取次所	三菱UFJ信託銀行(株)全国各支店 野村證券(株)本店・全国各支店

株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話およびインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-244-479(本店証券代行部)

ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、「(株)証券保管振替機構」に預託されました株券についての届届および手続等に関するお問い合わせは、お取引先の証券会社へお願いいたします。

## ホームページのご案内

<http://www.toyota-shokki.co.jp/>



# TECHNOLOGY

技術の中に、エコがある。

## 未来へ届ける、エコの気持ち。 豊田自動織機の環境技術。

私たちの製品開発の根底にあるもの、それは「環境への想い」。どんなときも地球環境の未来を考え、「想い」を「カタチ」にしてきました。例えば、標準装備の電子制御ガソリンエンジンと三元触媒マフラーにより2007年排ガス規制にいち早く対応した「フォークリフト 新型ジェネオ」。カーエアコンの心臓部として、燃費向上のため絶え間ない進化を続ける「カーエアコン用コンプレッサー」。トヨタプリウスなどを陰で支える『DC-DCコンバーター』をはじめ、ハイブリッド車に貢献する「パワーエレクトロニクス部品」。他にも繊維機械・自動車・エンジンなど、環境への取り組みはあらゆる分野で加速しています。人間だけを幸せにする技術ではなく、すべてを幸せにする技術で、製品を、あなたの笑顔を、地球の未来を生み出していきます。

当社のフォークリフトは「トヨタL&F」ブランドで販売されています。

(表紙及び上記の文章は、当社が  
掲載した広告を元にしています)

 **株式会社 豊田自動織機**  
愛知県刈谷市豊田町2丁目1番地 〒448-8671  
TEL(0566) 22-2511(代表) FAX(0566) 27-5650

 R100  
古紙配合率100%再生紙を使用  
しています。

この印刷物は、環境保護  
のため再生紙を使用し  
ています。

 PRINTED WITH  
SOY INK

この冊子の印刷には環境  
に配慮した植物性大豆油  
インクを使用しています。